

【質問】 救急車が有料になると聞きました。本当でしょうか。
(63歳、無職女性)

救急出動の有料化

【回答】 決定されたわけではありませんが、検討されているのは本当です。5月の財政制度等審議会で、財務省が示した案の中に

「軽症の場合の有料化などを検討すべきでないか」と明記されています。消防庁によると、2013年の救急車の出動件数は約591万件、搬送人員約534万人と過去最多を記録しました。高齢者が占める割合は年々増加し、54・3%となりました。



軽症時に導入検討

疾病程度別の搬送人員の構成比は軽症49・9%、中等症39・5%、重症8・

出動件数を事故種別に見ると、急病が約372万件(63・1%)で最多。一般負傷約85万件(14・4%)、交通事故約53万件(9・1%)と続き、これら上位三つで全体の約80%を占めます。この10年間で見ると、急病が増え、交通事故は減ってきています。

9%、死亡1・5%。軽症は横ばい、中等度が増加、重症は減少傾向にあります。通報から現場到着までの時間は平均8・5分で、10年前に比べ2・3分延びました。さらに病院収容までの時間は39・3分で、9・9分延びました。病院収容までの時間の延びが

大きいのは、搬送先を見つけないの時間が長くなったほか、救急隊員が現場で応急救置を行うようになったこともその要因と考えられます。

救急隊員が応急救置をした傷病者は全体の97・3%に上ります。その中

適正利用考えて

で、救命救急士らが行った救命処置(除細動、器具を用いた気管道確保、静脈路確保、アドレナリン投与)は約13万件で、04年度の約2・4倍に増加。病院搬送後の救命率の改善に大きく貢献しています。救急車は人命を守るためにますます欠くことができない。

ないものとなってききました。政府は軽症を有料化することで救急車の出動を減らせると期待していますが、疾病程度を当事者が判断するのは非常に困難です。有料となったために救急車を呼ぶのをためらい、救える命が救えなくなる場合が出てきます。軽症の有料化には賛成できませんが、中には明らかに救急車を要請する必要がないと思われるケースも数多く見られます。救急車や救急医療は命を守るための限りある大切な資源です。有料になり困るのは、いざ本場に救急車を必要とする人たちです。皆さんも救急車の適正な利用について考えてみてくださ

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号をお記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。